こぶしだより
働こう障害者も働けるんだオレたちも
1997年4月30日(水)
第203号
―発行―
こぶし作業所
宇都宮市柳田町1401
☎0286(62)１９１１

こぶしの実践
―宿泊訓練①―

こぶし作業所では、開所当時から〝自立に向けたとりくみ〟のひとつとして宿泊訓練を行っています。全員の仲間を対象に、年に一度・3～4名のグループに分かれ、2名の職員（1泊につき2名）と2泊3日の外泊を共にするものです。宿泊先は、宇都宮市若草町にある栃木県身体障害者福祉会館生活訓練室で、和室・台所・お風呂も付いていてずっと利用させていただいています。（但し余り快適とは言えません、すみません）

まず、仲間たちはどんな気持ちで参加しているのでしょう。淳子さんは、他の仲間が大きなカバンを持って出勤してくるとすばやくキャッチ！職員のところにやってきて「宿泊訓練いつ？」と聞き、自分の予定を確認すると「やりたい！」とニッコリうなづき安心します。智子さんは、お母さんと一緒に荷造りしながら、家から離れて泊まるのだという事を理解し、心の準備をするようです。こんな風にすっかり定着したこのとりくみを、皆本当に楽しみにしているようです。〝訓練〟という名がついていて、いかにもビシビシやるものなのかと思われるかもしれませんが、そんな事はありません。いつも通り一日作業し、車で会館へ移動、途中皆で日中決めた献立に添ってスーパーで買物。おやつや時には職員の強―い希望でアルコールも少し（自腹です）カゴの中へ…。会館到着後は、お風呂準備・夕食作り・テレビ鑑賞？を分担し夕食を囲むのは7時頃、片付け・入浴を済ませ、みんなでくつろぐひと時です。個々の目標は、家族の方からの要望もお聞きし、本人とも話し合い、決めています。職員と一緒に卵を割ったり、お湯をポットに入れたり、言葉を発せなくても、台所をウロウロして〝何かやりたい〟と待っている人、得意の味噌汁を作ってくれる人、テレビの前ではいつもは余りかかわりを持ってなさそうな仲間同志が、手を出し、足を出し、笑顔を交わし合っています。やさしく布団を出したり、シーツをかけようとしてくれたり等々、あげればきりがありませんがこうした普段作業所生活の中では見かけられない仲間の姿を発見できるのも、宿泊訓練ならではのことです。

（今回は、宿泊訓練の様子をご紹介するだけになってしまいました。次回は、とりくみを通して、基本的生活習慣や介助等について考えてみたいと思っています。）

（鈴木）

花見

今年の花見は、去る4月8日（火）にこぶし・けやき作業所合同で芳賀町の〝かしの森公園〟で行いました。今年の桜の開花は例年より早くちょうど満開の見頃で平日にも関わらず、駐車場が満車になる程の人出で園内は賑わい、露店も出ていて花見の雰囲気を盛り上げていました。

公園に到着すると、お互いの作業所の仲間は久しぶりに会ったため「元気だった？」と話したりフリスビーやボールで遊んだりしました。いよいよ待ちに待ったお弁当です満開の桜をみながら食べるお弁当はとてもおいしかったです。中には、少し顔が赤い仲間もいて花見を満喫していました。

お腹がいっぱいになった頃、ステージの上で南京玉すだれが始まり観にいく仲間がいて一緒にステージに上がり演じている仲間もいました。ステージを終えた人達がテープを持って来ていっしょにダンスを踊りました。そのグループは、福祉施設に演芸ボランティアとして訪問している人達でした。十分に花見気分を楽しんだ後は、近くのホンダの体育館へ移動し、こぶし・けやき合同の初めてのコンサートのステージの練習をしました。初めてのせいかなかなか声がでませんでしたが、毎週金曜日の午後3時から芳賀町のトレーニングセンターでするので上達するでしょう。

（田島）

みんなで大地97・4

5月は田に水が入り、畦や土手には野草の花が色とりどりに揺れる水面を縁取る。鏡のような大地の上を自分の姿を映し、風に乗って飛べたらさぞや痛快であろう。

さて、春という言葉に豊かなイメージをふくらませているこれらの野の花は一斉に咲きはじめると思うだろうがそうではない。必ず1か月くらい遅れて咲き始めるのんびりやの仲間がいる。5月には、1度は必ず炬燵を出すほどの遅霜の日がある。野草は多くの花が遅霜にやられてもこのんびりやさんが必ず生き残り、種の存続を保障するのだという。野草に本来あるこのんびりやを交配などで改良し、人間が利用しやすくしたものが野菜で、遅霜の被害で全滅するニュースをよくきく

変わり者が種全体の命運を握っているのはなにも草花だけではない。高等生物たる人間もしかりなのである。ヒトは環境の変化に敏感に対応できるように自分の身体を変化させる遺伝子を必ず持っている。一方でこの遺伝子は人間にとって都合よく（環境に適応するように）働くとはかぎらない。具体的には適応とは逆に障害として現れてしまうのだそうだ。「この子ら（障害者）を世の光に」は私たちの大先輩、糸賀さんの言葉だが、障害者は人間という種の保持・発展を保障するための営みの結果として存在するということが生物学の最近の知見らしい。

こうした知識を知る由もない縄文人が障害を持った仲間を受け入れ、手厚い介護を行っていたというのは東京都老人総合研究所疫学部門室長の鈴木隆雄さんだ。縄文人の生活は青森の三内丸山遺跡等の発掘でよく知られるようになってきた。当たり前のことだが総じて縄文人の健康状態は良くなく、栄養不良の痕跡や過度の労働を推測させる骨の変形が顕著だという。

しかし驚くべき事は、こうした厳しい環境の中で重度のポリオに罹漢したと思われる縄文人が、寝たきりの生活を続け20歳以上の人生を全うしたという事実である。過酷な環境の中で弱者に対する配慮を育んでいた縄文文化（新石器時代）とはいかなるものだったのか。物も情報も豊か？だといわれる時代の中でこそ考えたい課題である。

（鬼やんま）

こぶしの新人？
亀田智直くん

こぶしのニューフェイス??亀田智直くん。〝亀ちゃん〟の愛称で親しまれている彼、実はすでに一昨年7月から実習生としてみんなの仲間入りをしています。

野沢養護卒、ゲームとビデオ（アニメ）が大好きな24才仲良し家族で時々カラオケに行ったり、コンサートに行ったり……。好きな食べ物はメロンといちご。よく気の利くやさしい亀ちゃんですが、意外に（!?）負けず嫌いな一面も……。

作業班はベアリング。周囲によく目を配り、油で真っ黒に汚れた手を誇らしげに見せてくれながら、今日もみんなと頑張っています。

（桜庭）

よろしくお願いします。

沖縄の文化に触れてみませんか

ひろがれコンサート

チケット　発売中!!

※詳しい事は同封のチラシを

親子食事会
けやき作業所

平成9年3月8・9日待ちに待った親子食事会、昨年8月に保護者会を開いた時に今年度の食事会はゆっくりと一泊二日するため近い所という事で、馬頭町の那珂川苑に決まり実行しました。当日は朝からよく晴れて食事会にはもってこいの天気で、参加者総数33名は9時30分にけやきを出発しました。まず、烏山町の「山あげ会館」へ行きました。館内では山あげミニチュア展示があり、又山あげ祭りと同じ仕掛けでお祭りをわかりやすく説明してくれる勘助ジイチャンの姿は本物そっくりで面と向かって話しがしたい程良くできていました。次に「ふるさと民芸館」に行きました。近くに龍門の滝がありましたが、今年は雨が少なかったため流れる水の量が少なかったです。しかし、館内で昔滝の所の岩には大蛇が住んでいたという言い伝えがあり丸い大きい光る玉と真っ白い大蛇が荒れくるいながら岩から出てくるシーンを見て、皆ビックリし不気味な気がしましたが、龍門の滝の伝説がよくわかりました。

昼食をとる茂木町の「道の駅茂木」に向かいました。正午に到着し、レストランに入りました。お腹がすいていたのかカレーをおかわりする仲間もいました。お腹がいっぱいになったのにも関わらず、売店でジュースやアイスを買い食べている仲間もいました。

「道の駅」でのんびりと時間を過ごし1時40分に出発し、「那珂川苑」へと一路向かい2時30分に到着しました。

宴会は5時30分から始まりますので、それまでの時間は自由時間でお風呂へ入る人やゆっくりとくつろぐ人等ゆっくりと時間を過ごしました。5時30分になりいよいよ宴会が始まりました。最初は、何となく静かでしたが、段々とアルコール等が入り良い気分になり普段の思いを話したり、好きな歌をカラオケで歌い心行くまで楽しみ、心行くまで時の過ぎるのを忘れるくらい楽しい一夜を過ごせました。

一夜明け昨日の余韻を残しながら那珂川苑を後にし、一路けやきに向かい10時30分に到着し解散しました。子供の喜ぶ姿を見て親もこの時程満足した事はありませんでした。保護者の皆様本当にご苦労様でした。

（会長・川堀幸子）

5月31日

ゆうあいピック栃木県大会が栃木県総合運動公園の陸上競技場で開催されます。仲間も何人か出場しますので、時間のあいている方は会場へ応援に行って下さい。

尚、雨天の場合は翌日6月1日に順延します。

○時間…9時30分から

5月のこよみ

3	（土）	憲法記念日
4	（日）	休所日
5	（月）	子供の日
10	（土）	職員会議
11	（日）	休所日
17	（土）	合同レッスン日
18	（日）	休所日
24	（土）	休所日
25	（日）	休所日
26	（月）	コンサート
31	（土）	休所日

全障研結成30周年記念

ぐんぐん伸びろ発達の芽

みんなのねがいセミナー

1997年

6月8日（日）PM1：30～

宇都宮市コミュニティセンター

（文化会館となり）

全障研・育てる会

参加費　会員　￥1,000

未会員　￥1,500

学生　￥1.200

主催　全国障害者問題研究会栃木支部

ありんこ保育園を育てる会

講師　近藤　直子　先生

（日本福祉大学社会福祉学部教授）

1950年生東京生まれ大阪育ち

京都大学大学院修士課程修了

専門　発達心理学

主な著書　発達の芽を見つめて

ぐんぐん伸びろ発達の芽

こぶし作業所内　TEL　028-662-1911

ありんこ保育園内　TEL　028-652-0929